# 有朋自遠方来

10月16日、パリで活躍中の洋画家荻須高徳氏ご夫妻が、「正倉院展」見学の後、当館に立寄られ、開催中の「名品展」を鑑賞されました。

画伯は東京美術学校（現在の東京芸術大学）を卒業してすぐパリに留学し、佐伯祐三氏に師事。パリ在住36年で、パリの家並みを画きつづけ、「パリの画家」といわれています。今回は日本での個展開催を機会に6年半ぶりに帰国されたものです。東京、大阪、名古屋などの大都会の変貌ぶりには、大いに驚かれ、一種の落胆を感じられた様子ですが、奈良の古く美しいものは、氏に親しく何かを語りかけたことでしょう。

荻須氏がこよなく愛する古いパリも都市計画のため、次第に姿を変えつつある昨今とききますが、氏にとって今回の旅は失われつつあるものへの郷愁を強く感じた「感傷旅行」であったかもしれません。

季刊 美のたより No.19
昭和46年12月1日
発行 大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.